

要 約

試 験 委 託 者 : 環境省

表 題 : p-クロロフェノールのオオミジンコ (*Daphnia magna*)
に対する繁殖阻害試験

試 験 番 号 : A 0 3 0 4 3 3 - 3

試 験 方 法 :

- 1) 適用ガイドライン: OECD 化学品テストガイドライン No. 211「オオミジンコ繁殖試験」(1998年)
- 2) 暴露方式: 半止水式(毎日試験液の全量を交換)
水面をテフロンシートで被覆
- 3) 供試生物: オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4) 暴露期間: 21日間
- 5) 試験濃度: 対照区, 0.0200, 0.0630, 0.200, 0.630, 2.00 mg/L
(設定値) 公比: 3.2
- 6) 試験液量: 80 mL/容器
- 7) 連 数: 10容器/試験区
- 8) 供試生物数: 10頭/試験区(1頭/容器)
- 9) 試験温度: 20±1℃
- 10) 照 明: 室内光, 16時間明(800 lux以下)/8時間暗
- 11) 分 析 法: 高速液体クロマトグラフィー(HPLC)

試 験 結 果 :

1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果、測定値の設定値に対する割合は、調製時において 89～102%、換水前において 83～99%であった。

2) 21日間暴露後の結果

親ミジンコ 1 頭あたりの累積産仔数に及ぼす 21 日間暴露の最大無作用濃度 (NOEC) は 0.189mg/L であった。しかし、親の 21 日間の死亡率は 0.0587mg/L において 50%、0.189mg/L において 40%と高く、親への無影響濃度は 0.0188mg/L であると判断した。

	(mg/L)	95%信頼区間 (mg/L)
親ミジンコの半数致死濃度 (LC50)	算出不可	—
親ミジンコへの無影響濃度	0.0188	—
50%繁殖阻害濃度 (EC50)	0.592	0.510～0.695
最大無作用濃度 (NOEC)	0.189	—
最小作用濃度 (LOEC)	0.598	—